

武蔵野クリーンセンター 運営協議会だより

2010.9.30 NO.48

新武蔵野クリーンセンター建設
に向けて
特集●新クリーンセンターの
検討進む
むさしのエコフェスタ

発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会
武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話 0422-54-1221

新武蔵野クリーンセンター建設に向けて

武蔵野クリーンセンター運営協議会会長 早川 峻

新施設の検討へ参加

平成 22 年 2～3 月に新武蔵野クリーンセンター（仮称）の施設基本計画を検討する「施設基本計画策定委員会」（以下略して策定委員会）、周辺の整備とまちづくりを周辺住民とともに検討する「施設・周辺整備協議会」（以下略して周辺協議会）、市役所内の横断的な調整を図る「周辺まちづくり整備庁内推進本部」が、来年 3 月まで連動して活動を始めました。運営協議会委員は、周辺住民として策定委員会と周辺協議会に参加しています。

求められる施設とは

策定委員会と周辺協議会は、共通し、「市民協働で安全・安心を最重要と考えた環境にやさしい施設計画」「自然環境と共生し、市民に親しまれ地域に開かれた施設」を基本コンセプトにしています。

また、省エネルギー・地球環境の保全や効率的で安定した運営ができるようコスト面も考慮しながら管理計画も検討しています。環境省では地球温暖化対策を施した施設の建設に対して交付金を支給しています。安全、安心で環境の良い新施設を目指し、さらに国の交付金を得て市税の節約を図るよう考えています。

煙突の「白煙」と「高さ」

私たち周辺住民としても今後さまざまな検討が必要です。その一つが、地球温暖化対策として煙突からの白煙防止装置を止めるかどうかの検討です。武蔵野市は、広報等で周知し、周辺住民には説明会を開催して、12 月に煙突の煙を見えないようにしていた白煙防止装置を停止する実験を行います（工場の排ガスは安全に処理され煙突から出る煙は水蒸気ですが、周辺地域に配慮して煙を見えないようにしています）。詳しくは広報をご覧ください。説明会にご参加ください。実験後、アンケート調査を行い、住民の意見を考慮して決まります。

そして、煙突について、高さ・形・色等を検討します。周辺住民にとって毎日眺める煙突の高さは重要な問題、地域に溶け込みまちづくりの核となるような施設にふさわしい煙突にしたいと考えています。

新施設建設には、平成 29 年度までに 5,000t のごみ減量が絶対必要条件です。市民一人ひとりがごみの分別・減量に努めましょう。

平成 22 年度 運営協議会委員

会 長：早川 峻（北町五丁目町会）	高橋 豊（北町五丁目町会）
副 会 長：木村 文（緑町二丁目三番地域住民協議会）	越智 征夫（緑町三丁目町会）
会 計：千綿 澄子（緑町二丁目三番地域住民協議会）	狩野 耕一郎（緑町三丁目町会）
会 計：藻谷 征子（緑町三丁目町会）	石黒 愛子（緑町二丁目三番地域住民協議会）
会計監査：高橋 健一（北町五丁目町会）	渡部 敏夫（環境政策担当部長）
	木村 浩（クリーンセンター所長）

特集 新クリーンセンターの 検討進む

施設基本計画策定委員会

新施設の建物、設備など基本仕様を中心に総合的に検討

新クリーンセンターの建設にあたって、どんな施設が適正かを総合的に検討する委員会です。たとえば、ごみ処理方式、機械設備、排ガスの規制値、建設によって周辺への環境影響がどうなるかの基礎資料づくり等を深く考え、武蔵野市の廃棄物の処理や資源化の基本計画を検討する大切な委員会と位置付けられます。

排ガス処理のしくみの検討 乾式処理と湿式処理

生活環境の安全・安心を守る排ガス処理方式には、乾式と湿式があります。

技術の進歩と地球温暖化防止の観点から比較してみると、現クリーンセンターで使用している湿式処理は、排ガスを苛性ソーダ液のシャワーで洗浄するので、装置が大型になります。そのため装置の建物に占める割合が大きく、かつ上下水道・電気等の維持管理費も高価になっています。

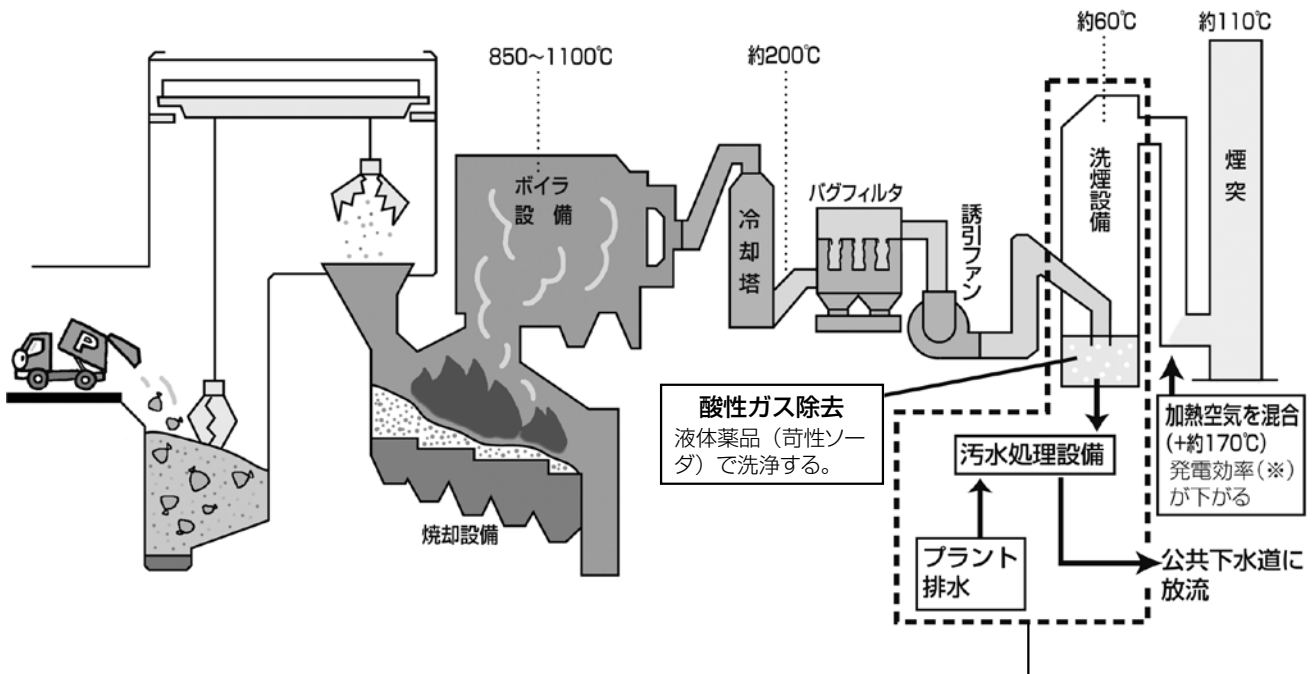
乾式処理は、消石灰や重曹等の粉末を吹き付けて中和する装置のみで排水処理はシンプルです。

以前は、乾式は湿式に比べて排ガス処理能力が低かったのですが、技術の進歩により乾式でも基準値をクリアーできるようになりました。

乾式は装置が小型になる他、大規模な排水処理装置が不要です。そのため建築費が約4億円削減され、また、設備が簡素化になり、上下水道・電気等が節約されます。

総合的にみても、乾式処理にすることによって地球温暖化対策にも大いに貢献できます。

現在のクリーンセンターの排ガス処理のしくみ—湿式処理



※発電効率
ごみを燃やして発生する熱エネルギーからどれだけ電気として取り出せるかの効率。環境省の「高効率ごみ発電施設整備マニュアル」では、120t/日の規模の施設の場合、発電効率14%となっている。

★乾式処理は、バグフィルタの前で、消石灰や重曹を吹き付ける方式などにより中和する。

★乾式処理の場合、この部分が不要。
★湿式処理は、洗煙設備と汚水処理設備の面積が必要。また、水を使用するのでその分コストもかかる。

排ガスの自主規制値の比較表

項目	単位	法規制値 大気汚染 防止法等	新施設 自主規制値 (案)	現施設 自主規制値	東京都内の 主な規制値 (二十三区 清掃組合)
ばいじん	g/m ³ N	0.08以下 (焼却能力2~4t/h)	0.01以下	0.03以下	0.01以下
いおう 酸化物 (SOx)	K値	1.17以下	—	—	—
	ppm	(105程度)	10以下	30以下	10以下
窒素酸化物 (NOx)	ppm	250以下	50以下	150以下	50以下
塩化水素 (HCL)	ppm	430以下*2	10以下	25以下	10以下
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	1以下 (焼却能力2~4t/h)	0.1以下	1以下	0.1以下

※一酸化炭素の数値は、運転管理上の数値を設定し自主規制値としては設定しない。

排ガスの規制値をどうするか!?

クリーンセンターの排ガスの規制値は、周辺地域の環境保全にとって大事な問題です。

新施設の排ガスの規制値は、策定委員会の基本コンセプトである「市民協働による安全で安心な施設」という考えに基づき「安全な排ガス処理システム」にすること、また住宅地の中にあるという立地条件も考えると、「現クリーンセンターの規制値よりさらに厳しい全国トップレベルの自主規制値と同等」にすることが策定委員会で確認されました。

粗大・不燃ごみ施設の爆発防止と手選別の廃止

現在、策定委員会においてどのような新施設にするか検討する中で、粗大・不燃ごみ処理施設についても議論しています。粗大・不燃ごみ処理施設について、私たち周辺に住む人間にとって一番気にかかることは爆発事故です。危険や不安の無いような施設にしてもらわなければならないので、爆発防止対策については大いに注目が集まることとなりました。

新施設では、まず大きな2つのローラーでゆっくりと巻き込む二輪の低速破砕機で粗破砕をして、ガスが入っていても火花が起きず爆発しないように潰した上で、高速の破砕機で小さく破砕するという形を取ります。こうして安全に小さく破砕したものを、高性能の分別機で鉄・アルミ・その他金属を資源化します。こうすることで、現在施設内の大変な作業環境の中で行われている金属の手選別工程をなくすことができます。

煙突の高さ 59m を考察する

武蔵野クリーンセンターの煙突は、淡い色調に塗装され、その高さは 59m。新施設の煙突の高さをどうするか大きな課題です。

「周辺環境のためには 100m以上が良い」という意見も出ています。公害研究対策センターの「窒素酸化物総量規制マニュアル」にそって開発された計算ソフトによる排ガスの拡散シミュレーションにおいて、100mと 59mの煙突により排出される有害物質の濃度の差は、特定の着地点においても意味のないほど“小さい”とされています。

地元住民は、昭和 59 年に現施設の稼働以来 26 年間、毎日眺めてきて“慣れ親しまされて来た”経緯があり、「目障りではなくなってきた」というのが率直な心情と思われまます。それだけに 100mの高さには抵抗を感じる住民は少なくありません。煙突の高さについては、周辺協議会と意見交換しながらデザイン性を中心に検討します。

適正な処理方式と財政バランス

新クリーンセンター建設は武蔵野市にとって大きな買物なので、将来のごみ行政を見据えてしっかり判断しなければなりません。

武蔵野市は多摩地域の自治体の中でも豊かな財政力を誇っていますが、将来の人口予測からは生産人口といわれる年齢層が減少するため、必ずしも安心はできません。新施設建設も際限なく経費をかけるわけにはいきません。初期投資も維持管理も無駄のない方法を検討することになりました。しかし、周辺住民は、安心と安全の確保なしには譲歩できません。そこで安心と安全を基本に、次の条件を満たす乾式処理の採用を検討しています。

- ①排ガス規制値をクリアできる処理方式
- ②焼却熱エネルギーを最大限に活用し（白煙防止装置の停止等）、初期投資や維持管理にかかる費用も減らす
- ③シンプルな処理方式であること

これまでの湿式処理は有害ガスを水で洗う方式だったので多量の水道水を使用しましたが、乾式処理は酸性の排ガスを中和させる重曹などを吹き付ける方式なので水はほとんど使用しません。当然排水処理もシンプルなので環境への負荷は最小限にできます。なお、あくまでも市民のごみ減量と分別の努力が大前提です。

施設・周辺整備協議会

新施設の付加価値や周辺まちづくりを検討する

新施設は建物をつくるだけでなく、周辺のまちづくりも一緒に整備をしていきます。周辺住民が参加する周辺協議会では、施設周辺の整備や市民に役立つ親しまれる施設、自然環境と共生したコミュニティの拠点となるようなまちづくりを目指して検討しています。これまで視察やタウンウォッチング、ワークショップをしながら議論を重ねています。

●先進のごみ処理施設やリサイクル施設を視察

3月末に広島市の中工場に視察に行きました。街はずれにある洗練された美術館のような施設で、武蔵野市には似合わない感じでしたが、開放的なつくりで見学者への展示や先進の設備等、おおいに参考になりました。また、私たちの新施設へのイメージが少し見えてきました。

8月、付帯施設の検討のために都内のリサイクル施設を2つ視察しました。「中央区立リサイクルハウスかざぐるま明石町」はリユースの推進を目的にした施設で、武蔵野市のシルバー人材センターにイメージが似ています。「港区立エコプラザ」は環境啓発のための学習や交流、情報発信のための施設です。どちらもさまざまな工夫がありました。

●みんなでタウンウォッチング

5月に、策定委員会のメンバーも自由参加で主に緑町三丁目から都営武蔵野アパート方面を、武蔵野市で現在進めている整備計画も合わせて、周辺地域の保存したい名所や旧跡も見て回りました。さまざまな角度から見るクリーンセンターも参考になります。最初に決めた経路から寄り道だらけの楽しい1日でした。

今回はみんなで歩くことで気づくことや確認できること等、さまざまな収穫がありました。地域の課題も見えてきました。今後、北町方面も歩く予定です。

タウンウォッチングで歩いた経路



ワークショップでまとめた主要要望(抜粋)

どのような施設・エリアの整備・周辺まちづくりをするか、ワークショップ形式で地図に要望や課題を付せん紙に書き、貼り付けました。今までクリーンセンター建て替えについて検討する勉強会や説明会、パブリックコメントやエコフェスタ等で出された要望等も盛り込みました。今後さらに意見や要望を加えて整理していきます。

<周辺まちづくりへの要望>

- 歩きやすい歩道
- 自転車ゾーンのある道路
- 花の回廊や緑のスペースの充実
- この地域一体を低炭素モデル地区に
- バスルートの見直し
- 緑町コミセンにエレベーター設置、会議室・駐輪場の増設等
- テニスコートの継続と位置の検討
- 野球場地下に防災倉庫を設置し防災拠点化する
- 市道41号線の整備 街灯・標識の見直し
- 電線類の地中化
- 中島飛行機変電所の保存
- 千川上水の整備
- 都営武蔵野アパートの未利用地の有効活用



<施設について>

- 見て感じてわかりやすい
- 車いすでも見学できる
- いつでも見学できる
- 安全対策は住民の目にもはっきりわかる表現で

<施設の付加設備について>

- ごみ処理について楽しく体験、学習できる場所
- 市民参加 ●情報発信の場
- 日常生活に役立つ施設 ●まちづくりセンター
- 雇用の場を生むしくみづくり
- 脱焼却、脱廃棄のための知恵を集めるしくみ

- 市役所食堂のような安くて子連れも入りやすいレストラン
- 小学生が室内で遊べる場所
- 自家製ハーブティーコーナー
- リサイクル工房と販売所
- 誰でも使用できるトイレ ●会議室、ホール
- 余熱利用のパン工房とカフェ
- 今までのようにフリーマーケットなど、イベントができる場
- 足湯など癒しの場
- 風力発電や太陽光発電を取り入れる

策定委員会と周辺協議会で一緒に検討する 煙突の白い煙・高さ・デザイン

策定委員会と周辺協議会の合同勉強会

策定委員会と周辺協議会は関連する課題について、合同で勉強会や意見交換会を行っています。

今年度の重要な課題に、煙突についての問題があります。設備については策定委員会で検討されていますが、煙突を毎日眺める周辺住民にとって大切な問題なので、合同で検討をしています。

●周辺住民の意見を重視

クリーンセンターは、周辺への配慮から工場のイメージを和らげるために白煙防止装置を設置していましたが、地球温暖化対策の一つとして新施設にはこの装置を設置しない検討をしています。

そのために武蔵野市は、水蒸気が煙に見えやすい12月に白煙防止装置を止める実験を行います。11月には実験の事前説明会が、周辺地域のコミセン等で開かれます。ぜひ、ご参加ください。実験後、アンケート調査が行われる予定です。



また、煙突についても検討しています。現在の煙突は議論の末、周辺に配慮し高さ59mの空に溶け込むようなソフトなデザインになりました。

新施設の煙突について、施設から遠くの住人にはより広く拡散される高い煙突を望む声もありますが、煙突が身近な周辺住民には心配する声も少なくないため、武蔵野市では周辺住民の意見を聞いて決定するとしています。今後の検討をしっかりと見守りながら、ご意見をお寄せください。

武蔵野市のごみの資源化——生ごみと剪定枝の資源化

クリーンセンターの検討の進行と同時に、武蔵野市は、新施設稼働予定の平成29年度までに約5,000tのごみ減量を計画しています。昨年7月、市役所内に生ごみ・剪定枝の資源化を進めるため、環境・緑化・農政などの分野を横断的に検討する「ごみ減量・資源化推進プロジェクトチーム」を発足させました。生ごみと剪定枝を堆肥化することで資源の循環を図り、クリーンセンターの焼却ごみを減らします。

生ごみの資源化については、今年6月と7月に約240所帯の市民の協力を得て、「生ごみの分

別・収集実験」を行いました。

また、現在クリーンセンターで焼却処理されている剪定枝の資源化についても、今年3～9月にかけて試行しています。剪定枝の搬入者（造園業者等）が、剪定枝をクリーンセンターのプラットホームでパッカー車に積み替え、市外の民間の資源化業者に運ばれ堆肥化されます。

また、武蔵野市は、生ごみ・剪定枝の資源循環のしくみをつくるために、市民にわかりやすいシステムにするよう検討しています。

傍聴できます

策定委員会と周辺協議会は、クリーンセンター3階の見学者ホールで月1回行われます。10月以降の予定はクリーンセンターにお問い合わせください。

★周辺協議会 10月25日（月）19時～

★策定委員会 10月28日（木）18時30分～

★クリーンセンターは見学できます。ご希望の方は、事前にクリーンセンター事務局にお申し込みください。

●ご意見、お問い合わせは

武蔵野クリーンセンター事務局

〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5

電話：0422-54-1221

FAX：0422-51-9194

メール：cnt-clean@city.musashino.lg.jp

ご意見をくださる際、必ずお名前と連絡先等をお知らせください。

サンバ



浅草のサンパチームの登場で会場は盛り上がりました。



サルサダンス

サルサチームのエネルギッシュなダンス

むさしのエコフェスタ

5月16日(日)、武蔵野クリーンセンター運営協議会25周年記念イベントとして、「むさしのエコフェスタ2010」を武蔵野市のフリーマーケットと同時開催しました。さわやかな晴天に恵まれ、約2,000名の来場者があり、クリーンセンターに親んでいただくために工夫をこらした役に立つ催しを楽しみました。

発表



市長が新しいごみ減量の標語を発表。「武蔵野チャレンジ600g」



ワークショップ



未来のクリーンセンターはどんな施設がいいか、付せん紙に書いてもらい、貼り付けていきます。



ごみの焼却で発生する熱を利用したおなじみの足湯は大人気。藤棚の下では沖縄音楽のバンド演奏に癒されました。

足湯



5月から楽しめる花の苗も、すぐ売り切れてしまいました。



花市



野菜市



いつも行列ができる地元新鮮野菜の販売。時間限定で2回販売もあっという間に売り切れました。



ちゃんと分別できるかな。

分別チャレンジ



展示



クリーンセンターについての展示も、青空の下で大勢に見ていただきました。



ふだん乗ることのできないごみ収集のパッカー車に乗って、ご機嫌の子ども達。

新聞紙でマイバッグ作り



新聞紙でマイバッグを作りました。小ささまざまなバッグがたくさんできました。



この他にクイズラリーで各ブースを回り景品のプレゼント、腐葉土の無料配布、陶器のリサイクル、ごみ処理工場見学等、クリーンセンターならではの催し物があり大好評でした。

◆クリーンセンターの絵本ができました
「なるほど！ ごみとクリーンセンター」

クリーンセンター建て替えの検討で寄せられたパブリックコメントの中の要望から、幼児向けのクリーンセンターの絵本をつくりました。武蔵野市のごみ処理の流れや環境問題についてわかりやすく描かれています。絵本は、運営協議会委員の木村文さんが、クリーンセンタースタッフと協力して制作しました。市内の小学校や保育所、図書館、コミセンなどに配布されています。ぜひ、ご覧ください。



◆運営協議会委員就任にあたって
“地域への貢献”を目指し

緑町三丁目町会 狩野耕一郎

町会の役員になって1年後、この大役を仰せつかりました。60歳過ぎの契約社員としても社会活動を継続中ですが、そろそろ卒業と予感しつつ新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画策定委員会や大野田地域防災の会の職責を加味すると、“地域への貢献”これが目指す方向、と悟る次第です。

◆クリーンセンター着任にあたって
クリーンセンターの変革時期に

クリーンセンター主事 神谷淳一

市に入庁して3年目になり、建築指導課から施設課を経て、クリーンセンターに配属になりました。

現在クリーンセンターでは、現施設の安定した運営管理と合わせて、新施設の建て替え計画という重要な業務を遂行しており、クリーンセンターの変革時期であり、この時期に業務に携わることには喜びと同時に重責であると感じております。

市民の方々と一緒に、現施設の安定した操業継続と次世代の新施設計画を考えていきたいと思っています。

●平成21年度 運営協議会決算 単位＝円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	0
その他の収入	38,717	広報費	256,954
前年度繰越金	231,648	事業費	421,714
		備品費	0
		予備費	0
計	1,270,365	計	※678,668

※平成22年5月に25周年記念イベントむさしのエコフェスタを開催するための費用を残してあります。

●平成22年度 運営協議会予算

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	5,000
その他の収入	30,000	広報費	280,000
前年度繰越金	591,697	事業費	1,180,000
		会議費	40,000
		備品費	30,000
		予備費	86,697
計	1,621,697	計	1,621,697

●平成22年度 事業計画

1. 運営協議会会議開催
(4月・5月・8月・10月・12月・2月)
2. 運営協議会25周年記念イベント
むさしのエコフェスタ(5月)
3. 「運営協議会だより」発行(9月・3月)
4. バス研修会(10月)
5. 運協委員視察研修(11月)
6. 理事者との意見交換会(12月)
7. 環境健康診断(2月・3月)

●クリーンセンターの人事異動 4月1日付

氏 名	新	旧
神谷 淳一	クリーンセンター 主事	施設課主事

◆バス研修会のお知らせ

好評のバス研修会を今年も実施します。大人も子どもも楽しめる内容です。詳しくは後日お知らせを配布いたします。

- ◎行き先…茨城県自然博物館 他
- ◎日 時…10月31日(日)
- ◎対 象…緑町三丁目町会、北町五丁目、緑町パークタウンと緑町二丁目第2アパートにお住まいの方

●編集後記

7月末の暑い最中、涼を求めて長野県川上村の武蔵野市自然の村に小学4、5、6年生と一緒にハイキング、炊事、キャンプファイヤーなど野外活動をしてきました。川上村のごみの分別は武蔵野市と同じで、子供達がごみ分別に取り組んでいました。子供の頃からごみに関心を持ってもらうことは大切なことだと思いました。(高橋 豊)